

研究成果報告要旨

2017年1月

特別養護老人ホームにおけるターミナル・ケアに対する介護職員の思いと達成感についての研究

指導 白澤 政和 教授

老年学研究科

老年学専攻

214J6904

関 恩淑

Research Paper (Abstract)

January 2017

Research on the Thoughts of Care Workers regarding Terminal Care in Special
Nursing Homes for the Eldery and on Their Feelings of Accomplishment

Eunsook Min

214J6904

Master`s Program in Gerontology

Graduate School of Gerontology

J.F.Oberlin University

Research Paper Supervisor : Masakazu Shirasawa

目次

第1章 緒言

1-1. 研究の背景

- 1) 超高齢社会と多死時代の到着
- 2) 高齢者が最期を迎える場所
- 3) 特養での看取りの状況
- 4) 介護職員におけるターミナル・ケアへの役割

1-2. 研究目的

第2章 研究方法

2-1. 用語の定義

2-2. 研究の対象・協力者

2-3. 調査方法

- 1) データ収集方法
- 2) データ分析方法

2-4. 調査項目

2-5. 倫理的配慮

第3章 調査の結果

3-1. 〈7つのサブ・カテゴリー〉

3-2. 【質の高いターミナル・ケアの実現】

3-3. 調査結果からの考察

第4章 本研究の限界と今後の課題

注

引用文献

第1章 緒言

1-1. 研究の背景

- 1) 超高齢社会と多死時代の到来。
- 2) 高齢者が最期を迎える場所
- 3) 特養での看取りの状況
- 4) 介護職員におけるターミナル・ケアの役割

1-2. 研究の目的

特別養護老人ホームでの限られた施設の中で、全人格的に関わっていくことであり、それを通して「その人らしい、安らかで、尊厳のある死」を模索していくこと、そして最終的には利用者と家族に、できるかぎり十分な形でそうした尊厳ある死を提供することである。そこから、介護職員の責任は重く、その果たす役割も大きい。爆発的に高齢者と逝去していく人々の数が増加する前段階において、「介護の現場における、ターミナル・ケアの実際」を、現場でそれを体験している当事者たちの声からあぶりだしていく研究は、意義あるものと思われる。

第2章 研究方法

2-1. 用語の定義

人が死に向かってゆく過程を理解し、医療のみではなく、人間的な対応をすることを強調していることであり、本研究では「ターミナル・ケア」という表現でまとめている。

2-2. 研究の対象・協力者

①介護福祉士の資格を持っていること、②特別養護老人ホームにおける経験年数が10年以上あること。③ターミナル・ケアを実施している施設での経験が5年以上あること。以上の3条件を満たす介護福祉士3名を対象とした。

2-3. 調査方法

- 1) データ収集：2016年8月1日～10月30日。

2) 分析方法

分析方法は、佐藤による定性的コーディング⁴⁾による分析方法を採用した。

2-4. インタビューガイド

- 1) ターミナル・ケア時における思い
- 2) ターミナル・ケア時での利用者との関わり
- 3) ターミナル・ケア時での家族との関わり
- 4) ターミナル・ケア時での職員間での連携
- 5) ターミナル・ケアを実施しての達成感

2-5. 倫理的配慮

本研究調査に当たり、施設の管理者を通してインタビューを依頼し、許可を得た。調査対象者には、書面で示しつつ説明した。

第3章 調査の結果

協力者の逐語録を読み込み、以下の7つのサブ・カテゴリー、4つのカテゴリー、中核カテゴリーに分類された。分析結果は、表2でまとめている。

3-1. 〈7つのサブ・カテゴリー〉

- * ①＝〈経験を重ねることによる、死、逝去が持っている特殊な局面の克服〉
- * ②＝〈ターミナル・ケアの経験値が上がっていくことで、介護職員が成長し、さらなる問題意識を持ち、介護職員の介護能力が上がっていく〉
- * ③＝〈逝去という人の重大な局面は、その人の臨終であるとともに、介護職員にとっても、ある種の最後通知〉
- * ④＝〈ターミナル・ケアに対する意義〉
- * ⑤＝「介護職員と利用者」：〈利用者と介護職員に生まれる深い感情〉
- * ⑥＝「介護職員と家族」：〈家族との関わりから生まれる信頼〉
- * ⑦＝「介護職員と職場の仲間たち」：〈意識を共有する職員同士の連帯から生まれる信頼〉

◎以上の7つのサブ・カテゴリーから、4つのカテゴリーが生成された。

3-2. 《4つのカテゴリー》

- 1) サブ・カテゴリー①から《ターミナル・ケアへの自信》
- 2) サブ・カテゴリー②から《ターミナル・ケアに対する手応えと充実感》
- 3) サブ・カテゴリー③④から《尊厳を支えるターミナル・ケア》
- 4) サブ・カテゴリー⑤⑥⑦から《充実した人間関係から生まれる信頼感あるターミナル・ケア》が生成された。

3-3. 【質の高いターミナル・ケアの実現】

以上、4つのカテゴリーから介護職員が目指すのは、【質の高いターミナル・ケアの実現】を提供することであるとした。

3-4. 調査結果からの考察

図1にはサブ・カテゴリー、カテゴリー、中核カテゴリー間の関連性を図式化した概念図を示した。

◎【質の高いターミナル・ケアの実現】を提供するための前提条件として、

1) 《ターミナル・ケアへの自信》が必要である。介護職員にとって「人の死」とは身近なものではない。だから彼らは、当初、消極的、後ろ向きな心情を抱える。しかし、施設で過ごす利用者と日々接しながら、利用者の様子を見、言葉を交わすなかで、介護職員も「人の死＝逝去」というものを自らの事として体験していく。

2) ターミナル・ケア経験を積んだ介護職員は、一回一回のターミナル・ケア経験が重なり、対応できる範囲も広くなり、それらが次に活かされる。ターミナル・ケアが終わった時、利用者が亡くなったことを知ると同時に、自分の介護がどのようなものであったかを、利用者の姿、表情などで知らされる。

3) ◎ 利用者の家族と介護職員。両者は、利用者の終末期を共にするもの同士であり、同じ方向を歩き続けている。介護職員のケアが十分であれば、家族から「亡くなったこと自体は、とても悲しいが、今の気持ちが軽やかです」というような反応が受け取れる。「良いターミナル・ケア」が実現される時、介護職員の中には、なんともいえない気持ちが広がり、すべてが終わり、最後に「お疲れ様でした」という言葉が、自然と口から出る。そういうターミナル・ケアが可能になる。◎「良いターミナル・ケア」が行なわれる必要条件是、介護職員的能力（経験、理解、技術、人間的深まりなど）。それらに加えて、「利用者、家族、仕事仲間」との良好な人間関係。その構築

である。それぞれを充実したものにすることが【質の高いターミナル・ケアの実現】につながる。介護職員のターミナル・ケア経験の深まり、習熟は、その介護職員としての日々の日常的介護作業にも反映されていく。(正のフィードバック)

第4章 本研究の限界と今後の課題

1点目は、ターミナル・ケアに関するコードが乏しかった。2点目は、対象者を拡大し、ターミナル・ケアに対する経験や自信がない介護職員への調査も含めた分析が必要としている点である。3点目は、“介護職員のターミナル・ケアに関する教育”に対する現状⁹⁾である。又、同じ特別養護老人ホームの中でも、介護職員すべてがターミナル・ケアの対応が出来るとは言えない状況である。ターミナル・ケアの経験が少ない介護職員との差をなくし、《意識を共有する職員同士の連帯から生まれる信頼》を高めていくことが必要である。以上を踏まえ、今後は詳細な事例分析を集積し、今回の概念図の検討を重ねていくようにする。

注

- 1) 内閣府:「平成24年版 高齢社会白書
- 2) 厚生労働省ホームページ平成21年度人口動態統計表 5-6 死亡の場所別にみた年次別死亡数百分率
- 3) 出典:平成23年までは厚生労働省「人口動態統計」
- 4) 厚生労働省. 特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準第22条(入所者の入院期間中の取扱い). 1999
- 5) 池崎 澄江、池上 直己:特別養護老人ホームにおける特養内死亡の推移と関連要因の分析、第59巻第1号「厚生指標」2012年1月
- 6) 厚生労働省ホームページ平成21年度人口動態統計表 5-6 死亡の場所別にみた年次別死亡数百分率.
- 7) 厚生労働省ホームページ平成21年度人口動態統計表 5-6 死亡の場所別にみた年次別死亡数百分率
- 8) 出村 早苗、中村 房代:特別養護老人ホームのターミナル・ケアにおける介護福祉士の役割—悩みと施設体制の関連から— 文京学院大学人間学部研究紀要 Vol.13, pp.219 ~ 236, 2012.3
- 9) 榊原 和子、中家 洋子:高齢者の看取りに関する介護福祉士教育の課題,四條畷園暖気大学 介護福祉科1-8 (2008)

参考文献

- 1) 濱田佐知子 熊谷悦夫:「介護施設職員の看取りに対する認識の探索的研究 四天王寺国際仏教大学紀要 55、91-110 (2012)
- 2) 大友 芳恵:看取り介護」実践が援助者にもたらすもの-職員調査からみた教育問題 北海道医療大学看護福祉学部学会誌 3-1 45-48 (2007)
- 3) 三好 弥生、上田千恵子:特別養護老人ホームにおける看取りの現状と課題-参与観察を通して-。103-117 (2014)
- 4) 上野 千鶴子:「おひとりさまの最期(10)看取り士の役目」 20(1) 、62-70 (2015)

- 5) 論山野 剛 :「ターミナル・ケアの実践事例 寄り添う介護の延長でターミナル・ケアの実践 Q」介護人材 Q&A11(117) ページ範囲 :62-76 (2014)
- 6) 佐藤郁哉 : 質的 データ分析方法新曜社、東京 (2013)
- 7) 看取りのガイドライン : 看取りのガイドラインから、ターミナル・ケアの体制、リハビリテーション、看護・介護の事例をとおして) 介護人材 Q&A 11(118)、6-8
- 8) 菊地 雅洋 : 「特養における看取り介護の実践と視点」 44、29-32 (2014)
- 9) 葛田 一雄 : 「特養における看取りケアの現場報告、看取りのケアに関する 5 つの問いかけ」 介護人材 Q&A 11(118) 、44-48 (2014)
- 10) 池上 直己 : 「看取りをめぐるわが国の現実とさまざまな問題」 (特集 "看取りケア"をどう進めるか) Expert nurse 30(9)、93-95 (2014)
- 11) 阿部 俊子 : 「看取り"のための政策はどのように進んでいるか 30(9)、88-91 (2014)
- 12) 今野 民子 : 施設における看取りケア:生きることを支える、人生の最期に寄り添う:連携と看取り)Best nurse25(6) 13-15 (2014)
- 13) 井澤 玲奈 : 特別養護老人ホームにおける利用者への看取り : 看護職と介護職の協働の視点からの検討 Reports of nursing research40 230-237 (2014)
- 14) 信田 美智代 : 介護の視点から (介護老人保健施設ゆうにみるターミナル・ケアの実際 : 看取りのガイドラインから、ターミナル・ケアの体制、リハビリテーション、看護・介護の事例をとおして) 介護人材 Q&A 11(118) 17-21 (2014)
- 15) 介護人材 Q&A : 介護の視点から (介護老人保健施設ゆうにみるターミナル・ケアの実際 : 看取りのガイドラインから、ターミナル・ケアの体制、リハビリテーション、看護・介護の事例をとおして 11(118) 17-21
- 16) 徳山 貴英福田 洋子、千草 集磨 : 特別養護老人ホーム入所者の「看取り介護」に対する意識、高田短期大学紀 要 32 43-54 (2014)
- 17) 西村 美智代 : 看取りに向き合える人材育成を目指して (特集 認知症の終末期医療)老年精神医学雑誌 25(2) 144-152 (2014)